

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業（20 社）

【自動車メーカー】（9 社）

日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機

【自動車部品メーカー】（7 社）

トヨタ紡織、デンソー、スタンレー電気、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ

【タイヤメーカー】（4 社）

横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	15
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	20
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 24 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**、**説明会等**および **ESG 関連**の項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は **67.2 点**（昨年度 **66.1 点**）、総合評価点の標準偏差は **5.1 点**（昨年度 **7.4 点**）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、**タイヤメーカー（4 社）71.7 点**（昨年度 **72.8 点**）、**自動車メーカー（9 社）67.5 点**（昨年度 **65.7 点**）、**自動車部品メーカー（7 社）64.3 点**（昨年度 **63.3 点**）となり、自動車メーカーが総合評価平均点を伸ばした。個社で見ると、日産自動車（+6.8 点）、横浜ゴム（+5.3 点）の総合評価点の上昇が目立った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が **66%**（昨年度 **67%**）、**説明会等**が **71%**（昨年度 **66%**）、**フェア・ディスクロージャー**が **75%**（昨年度 **79%**）、**ESG 関連**が **65%**（昨年度同率）、**自主的な情報開示**が **67%**（昨年度 **65%**）となった。

- ④ 評価項目（全 11 項目）について見ると、80%以上となったものはなく、次のフェア・ディスクロージャーの項目が最も高い水準となった。

・「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 75%〔昨年度 79%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：50%台 1 社・60%台 3 社・70%台 11 社・80%台 5 社）

- ⑤ ESG 関連の 3 項目は次のとおりとなった。このうち、(b) の平均得点率は、全 11 項目中で最も低い水準となり、評価対象企業間の得点差が大きかった。

- (a) 「環境負荷低減に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。また、その進捗状況、成果が十分説明されていますか」（平均得点率 69%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 13 社・70%台 5 社・80%台 1 社）
- (b) 「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率 60%〔新規項目〕）（得点率：40%台 1 社・50%台 14 社・60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 2 社）
- (c) 「人的資本に関する情報（人材戦略や給与の決定方針など）、および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的・積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか」（平均得点率 69%〔昨年度同率〕）（得点率：60%台 8 社・70%台 11 社・80%台 1 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 横浜ゴム（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点 79.3 点〔昨年度比+5.3 点〕、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）79%）、説明会等（86%）、自主的情報開示（84%）が第 1 位、ESG 関連が第 3 位（73%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 11 位（74%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」2 項目のうち、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションを行うこと。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」は、昨年度に比べ得点率が大幅に改善し、最も高い評価となった。また、「経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示すこと」も第 2 位と高い評価となった。この結果、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）でも最も高い評価となった。なお、「IR 部門の機能」は同得点第 5 位であった。これらに関連して CEO、COO、CFO がそれぞれ登壇する機会を設けるなど、経営陣が IR 活動や投資家とのディスカッションに積極的に取り組み、企業価値向上に対する高い意識を持っていることを評価する声があった。また、分かりやすく継続的に改善されるメッセージ発信や IR 体制の強化を評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要な情報が得られること」および「インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていること」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、説明会、インタビュー、説明資料等において定量データの開示が充実しており、投資判断や企業分析に有用な情報提供が行われている点を評価する声があった。また、情報開示が既に充実しているうえ、投資家のニーズを汲み取り、さらに改善を進めていることを評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 11 位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、社外取締役を対象としたスモール

ミーティングの開催を通じて、ガバナンスに関する理解を深める機会を積極的に提供している点を評価する声が寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」および「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は、共に昨年度に比べて得点率が改善し、最も高い評価となった。これらに関連して、中期経営計画目標も外部環境や進捗に応じて柔軟にアップデートされていることを評価する声があった。有益なイベントとして、原材料調達説明会や社外取締役スモールミーティング等を挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 いすゞ自動車（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 74.3 点〔昨年度比+3.5 点、一昨年度比+7.5〕、昨年度第6位〔一昨年度第11位〕

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（78%）、説明会等（81%）が第2位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（82%）、自主的情報開示が第4位（74%）、ESG 関連が同得点第11位（64%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」2項目のうち、「経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示すこと」が最も高い評価となった。また、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションを行うこと。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」は、昨年度に比べ得点率が大幅に改善し、第2位となった。この結果、「経営陣の IR 姿勢」（2項目計）では第2位となった。このほか、「IR 部門の機能」は最も高い評価となった。これらに関連して、CFO が頻度高く取材に出席し直接対話できることや、経営陣が IR を重視し株式市場の要望を意識した ROE・資本政策などの KPI を掲げていることに加え、IR 部門と経営陣の距離が近く、丁寧かつ質の高い対応が行われている点を評価する声が寄せられた。また、経営トップが IR 取材や説明会に積極的に参加し、企業価値向上に向けた前向きなディスカッション姿勢や、イベントの拡充など、株式市場を意識した積極的な IR 活動を評価する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が第2位、「インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていること」は同得点第2位となった。これに関連して、CFO 自らが取材で疑問点に回答するなど対話姿勢が積極的であるとの声があった。また、説明会資料の補足説明が分かりやすく、実績や計画の数値について根拠を持って丁寧に解説していることや、状況に応じた補足スライドの活用、金融事業の切り出しなど、適切で分かりやすい情報開示を評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第3位となった。これに関連し、開示の公平性に特段の問題はなく、説明会が日本語のみでの開催であっても、質疑応答を含めた内容を適切に開示しているなど、フェア・ディスクロージャーへの配慮を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「人的資本に関する情報（人材戦略や給与の決定方針など）、および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的・積極的に開示していること。また、その成果を提示していること」が同得点第5位、「環境負荷低減に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取り組みを適切に開示していること。また、その進捗状況、成果が十分説明されていること」が同得点第7位となった。また、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が同得点第10位となった。なお、サステナビリティレポートに詳述はあるが、特段理解を深める機会は無かったとの声や、社外取締役との対話機会を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」は昨年度に比べ得点率が大幅に改善し、同得点第2位となった。また、「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」の得点率も改善し第8位となった。有益なイベントとして、アフターセールス事業説明会を挙げ

る声が多く寄せられた。また、マネジメントスモールやタイ事業説明会を評価する声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

第 3 位 住友ゴム工業（総合評価点 74.1 点〔昨年度比－1.4 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、自主的情報開示が第 2 位（79%）、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（74%）、ESG 関連が第 4 位（70%）、説明会等が第 5 位（75%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 11 位（74%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が第 3 位となった。これらに関連して、経営陣が企業価値向上に対して高い意識を持ち、経営トップ自らが投資家とのディスカッションに前向きに取り組むなど、積極的な IR 姿勢を評価する声が寄せられた。なお、CFO が取材対応することや、経営陣と IR 部門の距離が近いことを評価する声があった。また、「IR 部門の機能」は同得点第 5 位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要な情報が得られること」および「インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていること」は共に第 5 位となった。これに関連して、説明会資料で販売本数と生産ゴム量の両方を開示していることを評価する声があった。なお、増減要因分析について、数量要因と構成要因を分けた開示など、より詳細で分かりやすい説明を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は得点率が下がり同得点第 11 位（昨年度同得点第 7 位）となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が第 4 位となった。これに関連して、社外取締役との対話の機会を評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」が同得点第 2 位となった。また、「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 3 位となった。有益なイベントとして、社外取締役ミーティングや氷雪上試乗会、DUNLOP ブランド戦略発表会を挙げる声が寄せられた。

以 上

2026年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. E S Gに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価項目3 (配点 35点)	評価点	順位	評価項目2 (配点 15点)	評価点	順位	評価項目1 (配点 5点)	評価点	
1	5101 横浜ゴム	79.3	27.7	1	12.9	1	3.7	11	18.2	3	16.8	1	4
2	7202 いすゞ自動車	74.3	27.3	2	12.1	2	4.1	3	16.0	11	14.8	4	6
3	5110 住友ゴム工業	74.1	25.8	3	11.3	5	3.7	11	17.5	4	15.8	2	3
4	5108 プリヂェストン	72.9	24.5	6	10.6	10	4.1	3	20.3	1	13.4	7	1
5	7267 本田技研工業	71.0	24.9	4	12.0	3	4.2	1	16.4	7	13.5	6	2
6	7269 スズキ	70.2	23.9	7	10.7	7	4.1	3	16.1	10	15.4	3	11
7	7282 豊田合成	70.1	24.8	5	11.0	6	3.8	10	16.3	8	14.2	5	8
8	7203 トヨタ自動車	69.3	23.5	8	11.6	4	3.9	6	18.9	2	11.4	20	5
9	7261 マツダ	65.9	23.1	10	10.7	7	4.2	1	15.2	15	12.7	14	14
10	7201 日産自動車	65.1	21.2	18	9.9	17	3.9	6	17.2	5	12.9	12	20
10	7259 アイシン	65.1	22.4	12	10.7	7	3.6	14	16.0	11	12.4	16	12
12	3116 トヨタ紡織	64.5	21.3	16	10.2	11	3.6	14	16.2	9	13.2	8	9
13	7270 SUBARU	63.6	23.0	11	8.2	20	3.9	6	15.4	14	13.1	10	7
14	7211 三菱自動車工業	63.4	22.4	12	10.1	13	3.6	14	14.1	19	13.2	8	16
14	6902 デンソー	63.4	20.2	20	10.2	11	3.7	11	17.0	6	12.3	17	10
16	6923 スタンレー電気	63.3	23.2	9	9.9	17	3.3	18	14.1	19	12.8	13	19
17	7272 ヤマハ発動機	62.6	21.3	16	10.0	15	3.9	6	15.8	13	11.6	19	15
18	7276 小糸製作所	62.1	21.2	18	9.9	17	3.3	18	14.7	16	13.0	11	17
18	7988 ニフコ	62.1	22.2	14	10.0	15	3.4	17	14.6	17	11.9	18	18
20	5105 TOYO TIRE	61.3	21.4	15	10.1	13	2.8	20	14.3	18	12.7	14	13
	評価対象企業評価平均点	67.18	23.21		10.61		3.76		16.29		13.31		

2026年度の具体的評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	15
②経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示していますか。	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）	10
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（15点）	配点
①説明会、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	10
②インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	5
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
4. ESGに関連する情報の開示（25点）	配点
①環境負荷低減に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。また、その進捗状況、成果が十分説明されていますか。	10
②社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	10
③人的資本に関する情報（人材戦略や給与の決定方針など）、および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的・積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか。	5
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（20点）	配点
①事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕	10
②納得性の高い中長期戦略を公表していますか。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていますか。	10
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	坂口 大陸	みずほ証券
	岩井 徹	SBI 証券
	木下 壽英	野村證券
	鈴木 衡大朗	ニッセイアセットマネジメント
	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（24 名）

石本 渉	野村證券	島原 陸也	SOMPO アセットマネジメント
石山 孝高	みずほ証券	鈴木 衡大朗	ニッセイアセットマネジメント
磯部 智一	三菱 UFJ アセットマネジメント	高橋 侑也	丸三証券
庵原 浩樹	立花証券	田中 健司	アセットマネジメント One
岩井 徹	SBI 証券	田村 真一	極東証券経済研究所
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	成瀬 伸弥	岡三証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
垣内 真司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	箱守 英治	大和証券
木下 壽英	野村證券	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	牧 一統	SMBC 日興証券
齊藤 博之	水戸証券	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
坂口 大陸	みずほ証券	吉田 有史	シティグループ証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。